

文学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

文学研究科博士課程（後期）は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の高度な理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とし、広い視野に立つ精深な学識と高度な研究能力を涵養し、人間及びその言語・文化活動の全体を根源的、歴史的、また体系的に捉え、理解する力を備えた研究者として自立できる人物を養成することを目的とする。

哲学専攻

哲学専攻博士課程（後期）は、思想、宗教、文化という歴史的社会的な背景を踏まえた西洋の伝統的な哲学及び倫理学の根本問題について、古典研究の概念的、解釈的な理解力と自己の主題を精神史に位置づける問題構想力の徹底的な研鑽をとおして、高度な研究の資質、さらに教育者としての指導性を身につけて、専門機関における研究職並びに高度知識社会における教育職で活躍しうる人物を養成することを目的とする。

博士（哲学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（哲学）の学位を授与する。

- ・哲学及び倫理学で最も求められる研究に必要な幅広い知識を備え、応用的な知識・理解に関する高度な研究と教育ができる（知識・技能）。
- ・原典を読み解き、深く思索する力を研ぎ澄ませ、確かな判断力を養い、研究成果を学際的研究や共同研究において発信交流できる高度な専門性を身につけられる（思考力・判断力・表現力）。
- ・つねに研究倫理を遵守し、他者との対話を通じて、多様なものの見方からアクチュアルな問題に主体的に取り組み、自己省察や自己啓発を心がけられる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- ・哲学専攻は、大学や諸研究機関で働く、高度な研究と教育の資質をもった人物を養成するために、後期課程生が主指導教員の担当する特殊研究と演習を履修するだけではなく、副指導をはじめ他の教員の科目も積極的に受講するようにカリキュラムを設計している。

各科目群で養成する学力

- ・「哲学および哲学史特殊研究」は指導教員の指示により、いずれか一つを登録し、研究内容はもちろんのこと、それだけに留まらず、問題意識を深く主体的に涵養して、多様性と協働性の観点から研究方法や研究倫理をしっかりと身に付けるために、その指導を必ず受けなければならない（知識・技能、主体性・多様性・協働性）。
- ・個々の研究内容の一層の深化をはかり、学会等での発表や質疑応答の仕方などを学ぶために、コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各6単位以上、「哲学総合演習」を4単位以上、合計16単位以上を履修しなければならない。
- ・「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は、それぞれ、春学期と秋学期に開講される。演習では、後期課程生の問題関心と指導教員の専門性とを勘案して、後期課程生の能動的な参画のもとで、その研究に対する専門的な指導を行っていく（知識・技能）。そのなかで、後期課程生は、「哲学および哲学史特殊研究」の学びと併せて、原典の読解と思索を深化させていく（思考力・判断力・表現力）。
- ・「哲学総合演習」では、研究の領域の専門性にかかわらず、後期課程生と指導教員の全員が集まり、後期課程生の発表を聞きながら、それぞれの関心を背景に討論を展開する。「哲学総合演習」への参加を通じて、

後期課程生は、主体的な研究の重要性を自覚しながら、多様なものの見方を知り他の考え方をみずからの研究の糧としていくという協動的な学びに従事していく（主体性・多様性・協働性）。

- ・後期課程では、近年、とくに問題になっている研究倫理にも注視している。「哲学および哲学史特殊研究」で研究倫理の意義を説く。そこに留まらず、後期課程生の研究を指導する「演習」でも、研究倫理の遵守に関して、いっそう具体的な指示が与えられる。一同が会する「哲学総合演習」も研究倫理に関する統一的な教育の場として活用する（主体性・多様性・協働性）。
- ・こうした高度な専門性を有する指導のもとで、高度知識社会のなかで問うべき根本的な課題を論理的な思索と包括的な判断とによって発信できるようになる（思考力・判断力・表現力）。
- ・後期課程の教育課程には「論文」として博士論文の制作を配置している。博士論文の提出がなければ、博士（哲学）の学位を取得できないことは、言うまでもない。博士論文の内容に関しては、とくに、古典研究の概念的、解釈的な理解力、高度に専門的な知識の応用的局面、研究成果の学際的な意義を問う。

英文学・英語学専攻

英文学・英語学専攻博士課程（後期）は、同志社英学校以来の伝統と現代のグローバリズムに基づき、前期課程において習得した英米文学と英語学・英語教育、およびこれらの関連分野における知識をさらに専門的に深め、鋭い分析・論理的批判能力と高度な英語運用能力を備えた人物の養成を目的としている。グローバル社会に通用する専門的知識、極めて高度な実践的英語運用能力、学術的および学際的思考能力・判断力を身につけ、将来、国内外の高等教育機関において研究・教育に深く携われ、国内外の学術会議や学術雑誌などに学術成果を発表し、自立した研究者・教育者として活躍できる人物を養成することを目的とする。

博士（英文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（英文学）の学位を授与する。

- ・英米および英語圏の文学とこれらの関連分野において、独創的かつ深い学術的知見に基づき、個別分野に対する理解を深め、極めて高い専門性を確立することができる（知識・技能）。
- ・専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な極めて高度な英語運用能力を習得し、それを国内外の学術機関や学会において有効に活用できる（知識・技能）。
- ・グローバル社会において、文学やそれに関連する分野の専門的かつ精緻な分析を通じて、独創的かつ国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・課題解決方法や理論を、国内外における学術会議において、精緻な英語表現により、論理的に提示し、国内外の学術雑誌などに論文を発表できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・グローバル社会において、文学や文化の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、国内外の研究者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- ・英米文学の領域において、博士課程（前期）で習得した専門的知識をさらに深め、専門性が高い英語運用能力を携え、博士論文を執筆・提出し、高等教育機関で自立した研究者・教育者として活躍できる人物を養成するため、高度な専門知識と研究能力を養う英米文学特殊研究と研究成果を活用できる能力を養う演習、および英文学総合特殊演習から構成されるカリキュラムを設置する。主指導および副指導からなる2人の教員による指導のもと、英米文学特殊研究を6単位以上、演習を6単位以上、さらに英文学総合特殊演習を4単位以上、合計16単位以上を習得しなくてはならない。

各科目群で養成する学力

- ・研究指導科目である英米文学特殊演習では、主指導の教員から博士論文作成のための個別指導を受け、論文作成に必要な専門性が高い知識を携え、客観的かつ正確に調査を行う技術を養い、論文を論理的に構築して英文論文を完成させる高度な英語表現能力を習得する。また、コース指導科目の演習では、主指導だけでなく、副指導の教員などの科目（2単位以上）も履修することで、広く深い学識を育む（知識・技能）。
- ・英米文学特殊研究と演習を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、論文作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、博士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。
- ・英米文学特殊研究と演習において、指導教員との意見交換の中で、主体的に博士論文に通じる研究に取り組むとともに、討論の中で多様性を受け入れ、より独創的かつ学術的に高度な議論を構築する。英文学総合特殊演習では、学会での個人研究発表に準じた形態で発表と質疑応答により指導をおこなう。個人発表においては主体的に論文作成に取り組み、専門の全教員と前期課程学生が参加する討論を通じ、他者との意見交換により多様性を受容し、さらに分析能力を磨くとともに、研究者としての素養を育む（主体性・多様性・協働性）。

博士（英語学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（英語学）の学位を授与する。

- ・英語学・英語教育とこれらの関連分野において、独創的かつ深い学術的知見に基づき、個別分野に対する理解を深め、極めて高い専門性を確立することができる（知識・技能）。
- ・専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な極めて高度な英語運用能力を習得し、それを国内外の学術機関や学会において有効に活用できる（知識・技能）。
- ・グローバル社会において、英語学や英語教育及びそれに関連する分野の専門的かつ精緻な分析を通じて、独創的かつ国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・課題解決方法や理論を、国内外における学術会議において、精緻な英語表現により、論理的に提示し、国内外の学術雑誌などに論文を発表できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・グローバル社会において、言語の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組む、国内外の研究者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- ・英語学・英語教育の領域において、博士課程（前期）で習得した専門的知識をさらに深め、専門性が高い英語運用能力を携え、博士論文を執筆・提出し、高等教育機関で自立した研究者・教育者として活躍できる人物を養成するため、高度な専門知識と研究能力を養う英語学特殊研究と研究成果を活用できる能力を養う演習、および英語学総合特殊演習から構成されるカリキュラムを設置する。主指導および副指導からなる2人の教員による指導のもと、英語学特殊研究を6単位以上、演習を6単位以上、さらに英語学総合特殊演習を4単位以上、合計16単位以上を習得しなくてはならない。

各科目群で養成する学力

- ・研究指導科目である英語学特殊演習では、主指導の教員から博士論文作成のための個別指導を受け、論文作成に必要な専門性が高い知識を携え、客観的かつ正確に調査を行う技術を養い、論文を論理的に構築して英文論文を完成させる高度な英語表現能力を習得する。また、コース指導科目の演習では、主指導だけでなく、副指導の教員などの科目（2単位以上）も履修することで、広く深い学識を育む（知識・技能）。

- ・英語学特殊研究と演習を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、論文作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、博士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。
- ・英語学特殊研究と演習において、指導教員との意見交換の中で、主体的に博士論文に通じる研究に取り組むとともに、討論の中で多様性を受け入れ、より独創的かつ学術的に高度な議論を構築する。英語学総合特殊演習では、学会での個人研究発表に準じた形態で発表と質疑応答により指導をおこなう。個人発表においては主体的に論文作成に取り組み、専門の全教員と前期課程学生が参加する討論を通じ、他者との意見交換により多様性を受容し、さらに分析能力を磨くとともに、研究者としての素養を育む（主体性・多様性・協働性）。

文化史学専攻

文化史学専攻博士課程（後期）は、過去における人間活動のあらゆる領域における事象を対象として、幅広い史料の徹底した分析と精緻な解釈に立脚したオリジナルな歴史像を構築できる能力を身につけて、歴史学の領域において自立した研究者として、あるいは関連する高度専門的な職業において自立的に活躍し、歴史学研究の進展に寄与する人物を養成することを目的とする。

博士（文化史学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（文化史学）の学位を授与する。

- ・歴史学の領域において自立した研究者として、あるいは関連する高度専門的な職業において自立的に活躍できるように、高度な歴史研究を遂行するのに必要な、当該関連分野に関する広くかつ深い知識、および多様な史料を分析して解釈できる能力を有する（知識・技能）。
- ・独創的な発想と柔軟かつ緻密な思考を土台にして展開される高度な研究を遂行し、過去の世界に関する人類の認識の進展に寄与しうる有意義な歴史の見方を構想して提示できる能力を有する（思考力・判断力・表現力）。
- ・重要でありながらも未開拓であった歴史上の課題を主体的かつ先駆的に発見して解明し、多様な観点を尊重する広い視野をもって、人類全体の調和に資する歴史認識の深化に貢献する姿勢をとれる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運用方針

- ・歴史学の領域において自立した研究者として、あるいは関連する高度専門的な職業において自立的に活躍できるような人材を養成するために、個人の研究分野に関する高度な知識を養う特殊研究と、得た知識を批判的に分析して再構築し表現する力を養う演習、総合演習によって構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

- ・特殊研究は、指導教員のもとで、高度な歴史研究を遂行するのに必要な、当該関連分野に関する広くかつ深い知識を学ぶことを到達目標とし、1科目以上を履修する（知識・技能）。
- ・演習は、設定された課題について多様な史料の解析にもとづいた創造的な構想能力を養うことを到達目標とし、I・II各4単位以上を履修する。総合演習は、学生と担当教員の全員の出席のもとで、学生が研究発表を行い、高度な専門的歴史研究にふさわしい論理構成や表現能力の錬磨を行うとともに、出席者間での討議を通じて高度な批判的思考力を培うことを到達目標とし、AI・AIIまたはBI・BIIから各2単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力）。

- ・博士論文は、主体的に課題を発見し、多様な史料の独創的な分析にもとづいて、人類にとって意義あるオリジナルな歴史像を構築し提示することを到達目標とする。また国内外の学会や研究会等での研究発表を自主的に行うことを、博士論文提出の前提条件としている（主体性・多様性・協働性）。

国文学専攻

国文学専攻博士課程（後期）は、古代・中世・近世・近現代の日本文学及び日本語について、作品の実証的研究や理論的研究、国際的視野に基づく比較研究、芸能・演劇等の隣接諸領域を視野に入れた研究、京都という地理的環境を生かした研究などをおして、日本文化について豊かな専門的知識や知的洞察力を身につけて、大学をはじめとする高度な研究・教育機関において十分な活躍をしようとする人物を養成することを目的とする。

博士（国文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（国文学）の学位を授与する。

- ・日本文学・日本語に関する課題の解決方法について、文献の探索や読解のための専門知識や技能を備え、高度な学術研究の立場を深く理解できる（知識・技能）。
- ・日本文学・日本語に関する課題について、高度な学術研究の立場から問題点を探究する知的洞察力を身につけ、課題解決のための学術会議において意見を表明できる（思考力・判断力・表現力）。
- ・日本文学・日本語に関する課題を高度な学術研究の立場から主体的に解決するために、他者と広く意見を交わし、多様な視点を養い、協働的に研究できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運用方針

- ・日本文学・日本語に関する課題を専門知識や知的洞察力を駆使しながら高度な学術研究の立場から解決し表現できる人物を育成するために、自身の研究テーマに係る高度な専門知識・技能・判断力を養う特殊研究および研究に必要な幅広く高度な能力と資質を養う演習Ⅰ・演習Ⅱ・総合演習によって構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

- ・特殊研究は、自身が取り上げた課題を解決するために必要な日本文学・日本語に関する専門的知識・技能や思考力を駆使した高度な学術研究の立場を深く理解することを到達目標とし、1科目以上を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
- ・演習Ⅰ・演習Ⅱは、専門的な判断力や表現力を駆使し、日本文学・日本語の専門領域およびその関連領域に関する高度な学術研究を推進することを到達目標とし、それぞれ6単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力）。
- ・総合演習は、在籍学生および教員の全員と相互批判しながら各自の研究を主体的・協働的に進展させ、多様な視点を養うことを到達目標とし、4単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
- ・最後に博士論文において、専門的な知識・技能や思考力・表現力を駆使し、日本文学・日本語についての高度な学術研究に貢献する成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
- ・なお、広く社会的な評価を得るために、学会で口頭発表および論文発表をすることを奨励する（主体性・多様性・協働性）。

美学芸術学専攻

美学芸術学専攻博士課程（後期）は、美学・芸術学・芸術史（美術史）について、西洋・東洋（日本）の美や芸術について、理論と専門的知識とを相互補完的に学ぶことによって、精深な学識、高度な研究能力、柔軟な思考力、鋭敏な分析力、並びに豊かな表現力を身につけて、美術館・博物館、大学をはじめとする研究機関で研究者として活躍しうる人物を養成することを目的とする。

博士（芸術学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に博士（芸術学）の学位を授与する。

- ・ 西洋・東洋（日本）の美学、芸術学、芸術史についての高度な専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法を深く学ぶことができる（知識・技能）。
- ・ 多くの情報の中から重要な問題を見出すとともに、多様な視点から柔軟かつ論理的な分析を通じて的確な推論を下し、その成果を平易かつ明晰に表現する高度な研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
- ・ 芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運用方針

- ・ 美術館・博物館、大学をはじめとする研究機関で研究者として活躍しうる人物を養成するため、特殊研究、特殊演習、総合特殊演習から構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

- ・ 研究指導科目である特殊研究では、博士論文作成のための高度な研究能力を養う。この特殊研究のうち一つを履修しなければならない（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
- ・ コース指導科目である特殊演習Ⅰ・Ⅱでは、美や芸術についての高度な専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法を主体的に深く学び、高度な研究能力を身につける。Ⅰ・Ⅱそれぞれから各6単位以上を履修しなければならない（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
- ・ コース指導科目である総合特殊演習では、芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽する。この特殊総合演習から4単位以上を履修しなければならない（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
- ・ 博士論文において、身につけた知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使し、高度な研究成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

授業1週目（DO Week）と授業15週目のオンデマンド配信の受講方法について

2024年度からの新学年暦では通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学HPに掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。

また、授業15週目のオンデマンド配信を含めて、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■2024年度からの学年暦

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



文学研究科

博士課程
(後期課程)
文学研究科

哲学専攻 (2013年度以降生)

	登録コード		科目名	主 題	単位	担当者	期間	週時間	
	科目	クラス							
コース指導科目	40211123	001	演習Ⅰ①		2	林 克樹	春学期	2	
		002	演習Ⅰ②	真という概念の形式的意味		新 茂之			
		003	演習Ⅰ③			中川 明才			
		004	演習Ⅰ④			中村 拓也			
		005	演習Ⅰ⑤			服部 敬弘			
		006	演習Ⅰ⑥			EMMANUEL CATTIN			
	40211124	001	演習Ⅱ①		2	林 克樹	秋学期	2	
		002	演習Ⅱ②	パースのプラグマティズム		新 茂之			
		003	演習Ⅱ③			中川 明才			
		004	演習Ⅱ④			中村 拓也			
		005	演習Ⅱ⑤			服部 敬弘			
	40211125		哲学総合演習		4	林 克樹 新 茂之 中川 明才 中村 拓也 服部 敬弘	春・秋学期	隔週2	
	研究指導科目	40211101		哲学および哲学史特殊研究Ⅰ			林 克樹	春・秋学期	
		40211102		哲学および哲学史特殊研究Ⅱ			新 茂之	春・秋学期	
		40211103		哲学および哲学史特殊研究Ⅲ			中川 明才	春・秋学期	
40211104			哲学および哲学史特殊研究Ⅳ			中村 拓也	春・秋学期		
40211105			哲学および哲学史特殊研究Ⅴ			服部 敬弘(秋学期のみ) EMMANUEL CATTIN(春学期のみ)	春・秋学期		
40211106			哲学および哲学史特殊研究Ⅵ			(本年度休講)			
40211107			哲学および哲学史特殊研究Ⅶ			(本年度休講)			
40211108			哲学および哲学史特殊研究Ⅷ			(本年度休講)			
40211109			哲学および哲学史特殊研究Ⅸ			(本年度休講)			
			論文						

履修方法

指導教員の指示により、上記の「哲学および哲学史特殊研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」のうち、いずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各6単位以上、「哲学総合演習」を4単位以上、合計16単位以上を履修すること。

英文学・英語学専攻（2014年度以降生）

	登録コード		科目名	主 題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
研究指導科目	40212131	001	英米文学特殊研究Ⅰ①	論文作成法講義	2	圓月 勝博	春学期	2
		002	英米文学特殊研究Ⅰ②	20世紀転換期のアメリカ文学研究		石塚 則子		
		003	英米文学特殊研究Ⅰ③	Studies in literary criticism		MARK RICHARDSON		
		004	英米文学特殊研究Ⅰ④	アメリカ文学・文化研究Ⅰ（論文作成演習Ⅰ）		白川 恵子		
		005	英米文学特殊研究Ⅰ⑤	19世紀・20世紀英米小説		白井 雅美		
		006	英米文学特殊研究Ⅰ⑥	地図とシェイクスピア		勝山 貴之		
		007	英米文学特殊研究Ⅰ⑦	Oscar Wilde's An Ideal Husbandを読む （本年度休講）				
		008	英米文学特殊研究Ⅰ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅰ		下楠 昌哉		
		009	英米文学特殊研究Ⅰ⑨	William Wordsworth and the Domestic Epic		DAVID JOHN CHANDLER		
		010	英米文学特殊研究Ⅰ⑩	イギリス・ロマン主義研究		金津 和美		
		011	英米文学特殊研究Ⅰ⑪	19・20世紀イギリス小説		金谷 益道		
	40212132	001	英米文学特殊研究Ⅱ①	論文作成法講義	2	圓月 勝博	秋学期	2
		002	英米文学特殊研究Ⅱ②	20世紀転換期のアメリカ文学研究		石塚 則子		
		003	英米文学特殊研究Ⅱ③	Studies in literary criticism		MARK RICHARDSON		
		004	英米文学特殊研究Ⅱ④	アメリカ文学・文化研究Ⅱ（論文作成演習Ⅱ）		白川 恵子		
		005	英米文学特殊研究Ⅱ⑤	19世紀・20世紀英米小説		白井 雅美		
		006	英米文学特殊研究Ⅱ⑥	シェイクスピアと東洋への旅行記		勝山 貴之		
		007	英米文学特殊研究Ⅱ⑦	Oscar Wilde's An Ideal Husbandを読む		川島 健		
		008	英米文学特殊研究Ⅱ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅱ		下楠 昌哉		
		009	英米文学特殊研究Ⅱ⑨	William Wordsworth and the Domestic Epic		DAVID JOHN CHANDLER		
		010	英米文学特殊研究Ⅱ⑩	イギリス・ロマン主義研究		金津 和美		
		011	英米文学特殊研究Ⅱ⑪	19・20世紀イギリス小説		金谷 益道		
40212136	001	英語学特殊研究Ⅰ①	認知言語学研究	2	菊田 千春	春学期	2	
	002	英語学特殊研究Ⅰ②	第二言語習得・心理言語学		赤松 信彦			
	003	英語学特殊研究Ⅰ③	応用コーパス言語学研究		能登原祥之			
	004	英語学特殊研究Ⅰ④	音声学・音韻論研究		菅原真理子			
40212137	001	英語学特殊研究Ⅱ①	認知言語学研究	2	菊田 千春	秋学期	2	
	002	英語学特殊研究Ⅱ②	第二言語習得・心理言語学		赤松 信彦			
	003	英語学特殊研究Ⅱ③	応用コーパス言語学研究法		能登原祥之			
	004	英語学特殊研究Ⅱ④	音声学・音韻論研究		菅原真理子			
コース指導科目	40212141	001	演習Ⅰ①	モダニズム研究	2	圓月 勝博	春学期	2
		002	演習Ⅰ②	第二言語習得・心理言語学		赤松 信彦		
		003	演習Ⅰ③	シェイクスピアとグローバル交易		勝山 貴之		
		004	演習Ⅰ④	英米文学と文学理論		白井 雅美		
		005	演習Ⅰ⑤			（本年度休講）		
		006	演習Ⅰ⑥	南部白人女性の財産権と奴隷所有：そのⅠ		白川 恵子		
		007	演習Ⅰ⑦	イーディス・ウォートン研究		石塚 則子		
		008	演習Ⅰ⑧	応用コーパス言語学		能登原祥之		
		009	演習Ⅰ⑨	American poetry and poetics		MARK RICHARDSON		
		010	演習Ⅰ⑩	認知言語学研究		菊田 千春		
		011	演習Ⅰ⑪	『ユリシーズ』演習Ⅰ		下楠 昌哉		
		012	演習Ⅰ⑫	William Wordsworth's Career as a Poet		DAVID JOHN CHANDLER		
		013	演習Ⅰ⑬	イギリス・ロマン主義研究		金津 和美		
		014	演習Ⅰ⑭	コンラッド・フォースター研究		金谷 益道		
		015	演習Ⅰ⑮	中世英文学研究		大沼 由布		
		016	演習Ⅰ⑯	音声学・音韻論		菅原真理子		

	登録コード		科目名	主 題	単位	担当者	期 間	週時間
	科目	クラス						
コース指導科目	40212142	001	演習Ⅱ①	モダニズム研究	2	圓月 勝博	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②	第二言語習得・心理言語学		赤松 信彦		
		003	演習Ⅱ③	シェイクスピアとグローバル経済		勝山 貴之		
		004	演習Ⅱ④	英米文学と文学理論		白井 雅美		
		005	演習Ⅱ⑤	同性愛の舞台表象		川島 健		
		006	演習Ⅱ⑥	南部白人女性の自律的財産権と奴隷所有：その2		白川 恵子		
		007	演習Ⅱ⑦	イーディス・ウォートン研究		石塚 則子		
		008	演習Ⅱ⑧	応用コーパス言語学研究法		能登原祥之		
		009	演習Ⅱ⑨	American poetry and poetics		MARK RICHARDSON		
		010	演習Ⅱ⑩	認知言語学研究		菊田 千春		
		011	演習Ⅱ⑪	『ユリシーズ』演習Ⅱ		下楠 昌哉		
		012	演習Ⅱ⑫	William Wordsworth's Career as a Poet		DAVID JOHN CHANDLER		
		013	演習Ⅱ⑬			金津 和美		
		014	演習Ⅱ⑭	コンラッド・フォースター研究		金谷 益道		
		015	演習Ⅱ⑮			(本年度休講)		
		016	演習Ⅱ⑯	音声学・音韻論研究		菅原真理子		
		40212145		英文学・英語学総合特殊演習	研究論文発表	4	圓月 勝博 赤松 信彦 勝山 貴之 白井 雅美 川島 健 <small>(秋学期のみ)</small> 白川 恵子 石塚 則子 能登原祥之 MARK RICHARDSON 菊田 千春 下楠 昌哉 DAVID JOHN CHANDLER 金津 和美 金谷 益道 菅原真理子	春・秋学期
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、「英米文学特殊研究Ⅰ，Ⅱ」「英語学特殊研究Ⅰ，Ⅱ」のいずれかを登録し、各6単位以上、合計12単位以上を履修すること。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ，Ⅱ」から各6単位以上、「総合特殊演習」を4単位以上、合計16単位以上を履修すること。

なお、上記の「演習Ⅰ，Ⅱ」12単位には、少なくとも主指導の教員が担当するものが8単位、副指導の教員が担当するものが4単位含まれるものとする。

文化史学専攻（2015年度以前生）

登録コード		研究指導分野	担当者
科目	クラス		
40204101		文化史学特殊研究Ⅰ	佐野 静代
40204102		文化史学特殊研究Ⅱ	水ノ江 和同
40204103		文化史学特殊研究Ⅲ	(本年度休講)
40204104		文化史学特殊研究Ⅳ	(本年度休講)
40204105		文化史学特殊研究Ⅴ	井上 一稔
40204106		文化史学特殊研究Ⅵ	小林 丈広
40204107		文化史学特殊研究Ⅶ	(本年度休講)
40204108		文化史学特殊研究Ⅷ	堀井 優
40204109		文化史学特殊研究Ⅸ	阿部 俊大
40204110		文化史学特殊研究Ⅹ	(本年度休講)
40204111		文化史学特殊研究Ⅺ	(本年度休講)
40204112		文化史学特殊研究Ⅻ	服部 伸

履修方法

上記のうち、いずれか一つにおいて指導を受けなければならない。ただし、指導教員の許可を得て複数の特殊研究を登録し、指導を受けることもできる。

登録コード		研究指導分野	担当者
科目	クラス		
40204122		文化史学総合演習Ⅰ（日本）	佐野 静代 水ノ江 和同 井上 一稔 小林 丈広
40204123		文化史学総合演習Ⅱ（西洋）	阿部 俊大 堀井 優 服部 伸 小野 直子
		論文	

履修方法

上記のうち、いずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。

文化史学専攻（2016年度以降生）

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間
	科 目	ク ラ ス						
研究指導科目	40204101		文化史学特殊研究Ⅰ			佐野 静代	春・秋学期	
	40204102		文化史学特殊研究Ⅱ			水ノ江和同	春・秋学期	
	40204103		文化史学特殊研究Ⅲ			(本年度休講)		
	40204104		文化史学特殊研究Ⅳ			(本年度休講)		
	40204105		文化史学特殊研究Ⅴ			井上 一稔	春・秋学期	
	40204106		文化史学特殊研究Ⅵ			小林 丈広	春・秋学期	
	40204107		文化史学特殊研究Ⅶ			(本年度休講)		
	40204108		文化史学特殊研究Ⅷ			堀井 優	春・秋学期	
	40204109		文化史学特殊研究Ⅸ			阿部 俊大	春・秋学期	
	40204110		文化史学特殊研究Ⅹ			小野 直子	春・秋学期	
	40204111		文化史学特殊研究Ⅺ			(本年度休講)		
	40204112		文化史学特殊研究Ⅻ			服部 伸	春・秋学期	
	40204113		文化史学特殊研究Ⅼ			(本年度休講)		
	コース指導科目	40204131	001	演習Ⅰ①	歴史地理学	2	佐野 静代	春学期
002			演習Ⅰ②	考古学の理論と実践	水ノ江和同			
003			演習Ⅰ③		(本年度休講)			
004			演習Ⅰ④		(本年度休講)			
005			演習Ⅰ⑤	日本美術史研究	井上 一稔			
006			演習Ⅰ⑥	日本近現代史の諸問題Ⅰ	小林 丈広			
007			演習Ⅰ⑦		(本年度休講)			
008			演習Ⅰ⑧	中東イスラーム史の諸問題Ⅰ	堀井 優			
009			演習Ⅰ⑨	西洋中世史研究の諸問題Ⅰ	阿部 俊大			
010			演習Ⅰ⑩	南北アメリカ史	小野 直子			
011			演習Ⅰ⑪		(本年度休講)			
012			演習Ⅰ⑫	西洋近代史演習	服部 伸			
013			演習Ⅰ⑬		(本年度休講)			
40204132		001	演習Ⅱ①	歴史地理学	2	佐野 静代	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②	考古学の理論と実践		水ノ江和同		
		003	演習Ⅱ③			(本年度休講)		
		004	演習Ⅱ④			(本年度休講)		
		005	演習Ⅱ⑤	日本美術史研究		井上 一稔		
		006	演習Ⅱ⑥	日本近現代史の諸問題Ⅱ		小林 丈広		
		007	演習Ⅱ⑦			(本年度休講)		
		008	演習Ⅱ⑧	中東イスラーム史の諸問題Ⅱ		堀井 優		
		009	演習Ⅱ⑨	西洋中世史研究の諸問題Ⅱ		阿部 俊大		
		010	演習Ⅱ⑩	南北アメリカ史		小野 直子		
		011	演習Ⅱ⑪			(本年度休講)		
		012	演習Ⅱ⑫	西洋近代史演習		服部 伸		
		013	演習Ⅱ⑬			(本年度休講)		

	登録コード		科目名	主 題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
コース指導科目	40204124		文化史学総合演習 A I (日本史)		I	小林 丈広 井上 一稔 水ノ江 和同 佐野 静代	春学期	隔週 2
	40204125		文化史学総合演習 A II (日本史)		I	小林 丈広 井上 一稔 水ノ江 和同 佐野 静代	秋学期	隔週 2
	40204126		文化史学総合演習 B I (西洋史)		I	阿部 俊大 堀井 優 服部 伸 小野 直子	春学期	隔週 2
	40204127		文化史学総合演習 B II (西洋史)		I	阿部 俊大 堀井 優 服部 伸 小野 直子	秋学期	隔週 2
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、「文化史学特殊研究 I～XIII」のうち、いずれか1つを登録して、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「演習 I・II」から各4単位以上、および「文化史学総合演習 A I・II」または「文化史学総合演習 B I・II」から各2単位以上、合計12単位以上を履修すること。

国文学専攻（2015年度以降生）

	登録コード		科目名	主 題	単位	担当者	期間	週時間
	科目	クラス						
研究指導科目	40206131		日本文学特殊研究Ⅰ			垣見 修司	春・秋学期	
	40206132		日本文学特殊研究Ⅱ			岩坪 健	春・秋学期	
	40206133		日本文学特殊研究Ⅲ			植木 朝子	春・秋学期	
	40206134		日本文学特殊研究Ⅳ			(本年度休講)		
	40206135		日本文学特殊研究Ⅴ			(本年度休講)		
	40206136		日本文学特殊研究Ⅵ			(本年度休講)		
	40206137		日本文学特殊研究Ⅶ			(本年度休講)		
	40206138		日本文学特殊研究Ⅷ			(本年度休講)		
	40206139		日本文学特殊研究Ⅸ			瀬崎 圭二	春・秋学期	
	40206141		日本語学特殊研究Ⅰ			(本年度休講)		
	40206142		日本語学特殊研究Ⅱ			藤井 俊博	春・秋学期	
コース指導科目	40206151	001	演習Ⅰ①	上代日本文学の考究	2	垣見 修司	春学期	2
		002	演習Ⅰ②	中古文学の研究方法		岩坪 健		
		003	演習Ⅰ③	日本中世文学の諸問題		植木 朝子		
		004	演習Ⅰ④			(本年度休講)		
		005	演習Ⅰ⑤			(本年度休講)		
		006	演習Ⅰ⑥			(本年度休講)		
		007	演習Ⅰ⑦			(本年度休講)		
		008	演習Ⅰ⑧			(本年度休講)		
		009	演習Ⅰ⑨	日本近現代文学における諸問題		瀬崎 圭二		
		010	演習Ⅰ⑩			(本年度休講)		
		011	演習Ⅰ⑪	日本語の諸問題		藤井 俊博		
	40206152	001	演習Ⅱ①	上代文学の諸問題	2	垣見 修司	秋学期	2
		002	演習Ⅱ②	中古文学の研究方法		岩坪 健		
		003	演習Ⅱ③	日本中世文学の諸問題		植木 朝子		
		004	演習Ⅱ④			(本年度休講)		
		005	演習Ⅱ⑤			(本年度休講)		
		006	演習Ⅱ⑥			(本年度休講)		
		007	演習Ⅱ⑦			(本年度休講)		
		008	演習Ⅱ⑧			(本年度休講)		
		009	演習Ⅱ⑨	日本近現代文学における諸問題		瀬崎 圭二		
		010	演習Ⅱ⑩			(本年度休講)		
		011	演習Ⅱ⑪	日本語の諸問題		藤井 俊博		
40206153		総合演習	日本文学・日本語学の発展的研究	4	岩坪 健 植木 朝子 垣見 修司 藤井 俊博 瀬崎 圭二	春・秋学期	2	
		論文						

履修方法

指導教員の指示により、研究指導科目「日本文学特殊研究Ⅰ～Ⅸ」「日本語学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」のうち、いずれか一つを登録して、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「演習Ⅰ・Ⅱ」から各6単位以上、「総合演習」を4単位以上、合計16単位以上を履修すること。

美学芸術学専攻（2013年度以降生）

	登録コード		科 目 名	主 題	単 位	担 当 者	期 間	週時間
	科 目	ク ラ ス						
コ ー ス 指 導 科 目	40213131	001	美学芸術学特殊演習Ⅰ①		2	(本年度休講)	春学期	2
		002	美学芸術学特殊演習Ⅰ②	東アジア美術史の諸問題Ⅰ		河野 道房		
		003	美学芸術学特殊演習Ⅰ③	美術における保管と展示		越前 俊也		
		004	美学芸術学特殊演習Ⅰ④	履修生の研究課題に沿って		伊達 立晶		
		005	美学芸術学特殊演習Ⅰ⑤	イメージ研究の方法論Ⅰ		佐藤 守弘		
		006	美学芸術学特殊演習Ⅰ⑥	カント『判断力批判』の序文を読む		森田 團		
	40213132	001	美学芸術学特殊演習Ⅱ①		2	(本年度休講)	秋学期	2
		002	美学芸術学特殊演習Ⅱ②	東アジア美術史の諸問題Ⅱ		河野 道房		
		003	美学芸術学特殊演習Ⅱ③	観者から考察する美術		越前 俊也		
		004	美学芸術学特殊演習Ⅱ④	履修生の研究課題に沿って		伊達 立晶		
		005	美学芸術学特殊演習Ⅱ⑤	イメージ研究の方法論Ⅱ		佐藤 守弘		
		006	美学芸術学特殊演習Ⅱ⑥	カント『判断力批判』の序文を読む		森田 團		
40213130		美学芸術学総合特殊演習	美学・芸術学・芸術史の諸問題	4	河野 道房 越前 俊也 伊達 立晶 佐藤 守弘 森田 團 大愛 崇晴 未定	春・秋学期	2	
研 究 指 導 科 目	40213133	001	美学芸術学特殊研究①			(本年度休講)	春・秋学期	
		002	美学芸術学特殊研究②			河野 道房		
		003	美学芸術学特殊研究③			越前 俊也		
		004	美学芸術学特殊研究④			伊達 立晶		
		005	美学芸術学特殊研究⑤			森田 團		
		006	美学芸術学特殊研究⑥			佐藤 守弘		
			論文					

履修方法

指導教員の指示により、上記の「美学芸術学特殊研究」のうち、いずれか一つを登録し、指導を受けなければならない。

コース指導科目のうち、「美学芸術学特殊演習Ⅰ・Ⅱ」から各6単位以上、「美学芸術学総合特殊演習」を4単位以上、合計16単位以上を履修すること。